

カンソンボン

ソロクト

しょうらい

姜善奉詩集 小鹿島の松籟

姜善奉 著 / 川口祥子 訳 / 上野都 監修

日本は植民地支配下の朝鮮で小鹿島にハンセン病者を隔離収容する療養所を設置。幼くしてここに母と隔離された著者が、過酷な生活や母との別離、発病の苦悩を詩で表現する。

著者略歴

著者は1939年、韓国・慶尚南道晋州で生まれ。2006年、ハンセン病者の人権回復と小鹿島の過去と現在を広く社会に問うため、『小鹿島 賤国への旅』を出版した。70代になり、「自分の人生を詠った恥ずかしい詩」を記しはじめ、現在は小鹿島に在住し、小鹿島の歴史と信仰の遺産を整理することに力を尽くしている。2016年には詩集『谷山の松風の音』、小説『谷山の忍冬草の愛』を出版した。

目次

序詩 老姑壇

●第一部

自序Ⅰ / 泡沫人生 / あのことろ / 風浪の海路 / そこでの最初の日 / 母子離別 / 保育園 / 愁嘆場 / 還元

●第二部

自序Ⅱ / 小鹿の松風 / ムカイの家 / 中央公園 / 小学校 / 付添人 / そこ / 騒擾事件 / DDS1 / DDS2 / 人として / 脱出の冒険 / 苛性ソーダ / 朴さんの死 / 小舟

●第三部

自序Ⅲ / 進学 / 私の詩 / 先生だと / 感謝の人生 / 夢の話 / 小鹿島の松林 / 月夜に / 亡き者との別れ

●第四部

自序Ⅳ / 生の終わり / 歳月の痕跡、小鹿島 / 視線 / 乞食に青柿 / 永遠に / お前と私はともに / 冬の大雪 / 小鹿島連陸橋 / わたしは / 立ち止まらないよう / 希望の村 / わらび / 濟州島へわらびを採りに / ススキの花 / 千年の飛揚島 / 小石 / 私の人生

●第五部

自序Ⅴ / ヨーロッパへ / パリにて / ルツェルンの時間 / テイトリス、雪山三三三八メートル / 白頭山 / 長白瀑布 / シドニーの祭り / ニュージーランド / 地の果て / ポルトガル / コルクの木の悲しみ / フェズ街道 / ジブシーの舞 / 月桂冠 / ガウディの痕跡を訪ねて / 月出山 / 耽津江ダムに立って / 追憶 / 内蔵山の紅葉 / 正東津駅 / 寂しいその島 / 待たねば

エピローグ 自分を見つめなおし人生を振り返って

推薦のことは 悲しみと涙のなから愛と幸福がこぼれ出てきます / 蔡奎泰

解説 小鹿島について / 川口祥子

訳者あとがき 著者姜善奉について

四六判 並製 126頁 定価1,200円＋税 ISBN978-4-7592-6786-0 C0098

(株)解放出版社

〒552-0001 大阪市港区波除 4-1-37 HRCビル 3F TEL06-6581-8542 FAX06-6581-8552

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-28-36 鳳明ビル 102A TEL03-5213-4771 FAX03-5213-4777

ご注文日 /	ご担当	姜善奉 著 / 川口祥子 訳 / 上野都 監修		
	様	カンソンボン	ソロクト	しょうらい
		姜善奉詩集 小鹿島の松籟		
		四六判 並製 126頁 定価1,200円＋税 ISBN978-4-7592-6786-0 C0098		
	冊	(株)解放出版社 TEL06-6581-8542 FAX06-6581-8552		